土佐備長炭ウバメガシ資源確保プロジェクト

地域と連携したウバメガシ保全管理の取組

四国森林管理局　四万十森林管理署

はじめに

高知県西部に位置する四万十森林管理署の管内には、日本三大備長炭の一つである土佐備長炭の産地があり、原材料として、ウバメガシが利用されています。

海岸沿いの管内国有林には、多くのウバメガシ林があるものの、利用適期を逃した樹木が利用されずに高齢級・大径化しています。

一方で、近年、高知県内での備長炭の生産量が増加し、ウバメガシの需要が高まっていることから、安定的な確保が地域の課題となっています。

今回は、ウバメガシの安定的な確保と適切な更新に向けて、地域と連携して取り組んでいる「土佐備長炭ウバメガシ資源確保プロジェクト」を紹介します。

ウバメガシと土佐備長炭

四国のウバメガシは、太平洋や瀬戸内海の沿岸の乾燥した斜面に広く生育し、材の硬度・密度がともに高く、古くから

海岸沿いのウバメガシ林

土佐備長炭

管内概要

所在地　高知県四万十市中村丸の内 1707-34

区域面積　27千ha
うち森林面積　253千ha
うち国有林面積　52千ha

関係自治体　４市６町１村
須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、中土佐町、梼原町、津野町、四万十町、大月町、黒潮町、三原村

四万十森林管理署は、高知県西部の11市町村にまたがる四万十川流域に位置し、流域内の森林面積約25万haの約２割となる約5.2万haの国有林を管理しています。

管内には「日本最後の清流」で知られる四万十川の源流点である津野町不入山、黒潮町入野松原の海岸林などのレクリエーションの森のほか、管内で82％を占める人工林には四万十ヒノキなどの高品質な林分もあり、多種多様な森林が分布しています。

これらの国有林は、水源の涵養や保健休養等の公益的な機能を適切に発揮できるよう、４つの機能類型に分類し、発揮すべき機能に応じて保育や治山事業を実施しています。

土佐備長炭の原料として利用されてきました。

高知県では、県東部の室戸地域と西部の大月町が土佐備長炭の主たる生産地となっており、「火力が強い」「灰が少ない」「火持ちが良い」といった特長から、近年需要が高まっています。

大月町では、平成22年に備長炭生産組合を設立し、先進的な生産地である和歌山県や室戸市などで研修を行いながら、製炭技術の向上、ウバメガシ林の育成などを実施し、令和6年度には、これまでの取組が評価され、「第10回ディスカバー農山漁村（むら）の宝」において優秀賞を受賞しました。

土佐備長炭の原料として最適な樹齢は30～40年ですが、化石燃料の台頭に伴う製炭事業の衰退により、ウバメガシ林の利用が減少し、60～90年の高齢級・大径化が進みました。大月町内の国有林にあるウバメガシ林も、同様に高齢級・大径化し、利用されないまま枯死したり、強風で倒れたりするものもありました。

このような中で、原料として最適なウバメガシを持続的に確保していくためには、大径化したウバメガシを伐採し、切り株から新芽を育てる「ぼう芽更新」を行うことが必要な状況となっていました。

大月町備長炭生産組合（上）と組合での製炭作業の様子（右下）
窯から出された炭（左下）

プロジェクトの取組

このような状況を受けて、平成30年に、高知県、大月町、大月町備長炭生産組合（以下、「組合」）と四万十森林管理署が連携して、ウバメガシの安定供給と老齢化したウバメガシ林の若返りを図る「土佐備長炭ウバメガシ資源確保プロジェクト」を開始し、①森林の若返りに向けた技術の確立、②地域と連携したウバメガシの植栽の取組を中心に進めています。

ぼう芽したウバメガシ

①森林の若返りに向けた技術の確立

当署では、令和元年度から2年度にかけて町内の国有林において、高齢級ウバメガシ林分を伐採し、ぼう芽更新により若返りを図る試験を実施し、伐採後の照度の計測、伐採高や伐採時期の違いによるぼう芽の状況などの調査・研究を行いました。

令和6年度には、ぼう芽の生育状況や環境条件との関係について、経過調査・解析を行い、伐根径（切株の直径）・照度・伐採面積が大きいほどぼう芽の生育が良好な傾向があったことから、ぼう芽更新の場合でも下刈り等の継続的な保育作業の必要性が示唆されるといった知見が得られてきています。

なお、これらの試験で行う下草刈りなどの必要な作業は、組合に協力いただいており、引き続き連携しながら調査・研究を実施していきます。

②地域と連携したウバメガシの植栽の取組

組合では、例年「大月の製炭学習と里山への植栽」と題して、高知県幡多林業事務所、大月町、地元高等学校や地元小学校と連携してウバメガシのドングリから苗木を作った上で、植樹活動を行っています。令和6年度には、1，920本の苗木づくりを実施するとともに、西泊地区の民有林において、200本のウバメガシを植樹しました。当署からは、講師として国有林での取組内容を紹介するなど、地域と連携した森林づくりの活動を進めています。

植樹活動（上）と
四万十森林管理署から国有林の取組紹介（下）

おわりに

ウバメガシ林の若返りと資源確保は、土佐備長炭の高まる需要に応え、持続的に生産していくために重要です。四万十森林管理署では、引き続き関係機関と連携しながら調査・研究を進め、持続可能な資源の確保に向けた森林づくりに取り組んでいきます。